

私は前期実習を行う中で、「授業のありかた」についてより深く考えるようになりました。実習が始まる前は、どういった授業が学習者にとって良い授業なのか、これまで自分が受けてきた授業の中で、おもしろいと思った授業や印象に残っている授業にはどんな共通点があるのか、など様々なことを考えましたが、考えもまとまらず、授業を想像しようとしてもなかなか想像できず、不安だけが募るばかりでした。

1 回目の授業ではロールプレイを担当し、準備では少しでも不安要素をなくそうと思い、1つ1つの説明から繋ぎのことばまで細かく考えていました。しかし、ほんの少しの説明も、この説明でちゃんと学習者に伝わるのか、もっと分かりやすい説明があるんじゃないかと悩むばかりで、どんどん時間だけが過ぎていきました。また、2年生で行った10～15分の授業で、「イメージは出来ていても、実際にやってみるとその通りにできない」という反省点があったので、今回はリハーサルをしっかりとしたいと思います。リハーサルをやってみると、文字カードを貼る位置やタイミングなど上手くいかない所がたくさん出てきたので、改めてリハーサルの大切さを感じました。本番では、緊張して考えていた説明もうまく出来なかったり、冷静に考えれば普通に出てくる言葉も出てこなかったり、心の焦りがかなりありました。「今」と「最近」の違いについて質問されたときには、説明できずに戸惑いました。「その場で出てきた疑問に対応したり、間違いを正しく分かりやすく説明したりすること」の難しさを実感しました。また、私は焦ったり戸惑ったりしたときもですが、少しでも不安なことがあると、一緒に授業をしている実習生に「合ってる?」「これで大丈夫?」と気持ちを誤魔化すために聞いてしまっていたので、そこは直したいと思いました。

1 回目の授業を終えて授業を作る難しさを実感し、授業をする前とは違った不安がたくさん出てきましたが、日本語そのものに対する興味がわいてきました。ある講義を受けていたときに、「なでる」という言葉が出てきて、そこから友人と「なでる」と「さする」はどう違うのか、また「こする」との違いは何なのかという話になりました。今まではあまり深く考えていなかったことですが、実習が始まって、普段から日本語の意味について考えるようになりました。

2 回目の授業では音声を担当し、準備では1回目よりも余裕をもってスムーズに、とはいかず、1回目同様1つの説明を考えるのにとっても時間がかかりました。教科書をそのまますればいいというわけではないので、教科書を基にどう発展させるかを考えるのも難しかったです。また音声での準備で一番苦勞したのは、イントネーションの練習です。自分が普段正しいと思って言っていたイントネーションが実は間違っていることもあり、正しいイントネーションに直すのは難しく、日本語を教えることの大変さをさらに実感しました。本番の初めに「いっぱい」のイントネーションを説明する場面がありましたが、始める直前まで練習していたにも関わらず、説明の時には正しいイントネーションが分からなくなりました。イントネーションが分からなくなることはあまりないと思っていましたが、実際に授業をしてみるとどれが正しいイントネーションなのか全く分からなくなったので、音声を教えるのはとても大変だと思いました。また、普通の文を質問の形に変えてもらう練習をした

後に、私が「次、84 ページ開いてください」と言うと、学習者 A さんから「え？84 ページ？」と言われましたが、ただ笑うだけで何と言っているか分からず反応できませんでした。学習者はいつどんなことを聞いてくるか分からないということを実感しました。今回の学習者は中国からの留学生 2 人でしたが、人数が増えるほど思ってもみない質問がたくさん出てくるんだろうなということを考えさせられ、とても恐ろしいなと思いました。1 回目の授業と比べて、気持ちに余裕を持てたということはありませんが、授業をするたびに新しい課題が見え、怖さ不安が募る半面、どうしたら学習者が理解しやすいか考えることがより楽しくなりました。

3 回目の授業では音声とロールプレイ両方を行い、準備では 1 回目、2 回目の時と比べて、グループ内でお互いに「ここはこうした方がいいんじゃないか」という意見がたくさん出るようになりました。音声の授業では、自分が間違っただけでイントネーションで言っていたことに反省会で指摘されるまで気づかず、実際に授業をしてみて初めてわかることがたくさんあるということを実感しました。

全ての授業を終えて初めに感じたのは、「実際に授業を考え、行うこと」ももちろん大事ですが、「その後どこが良くて悪かったのかしっかりと話し合い、自分を外から見てみる」が一番大切なのではないかという点です。反省会のたびに、自分の授業を見るのも見られるのも嫌でしたが、授業をしているときは授業で精一杯で、改めて見直すことで気付く点がたくさんありました。多くのことを吸収するためには、ゆっくりと自分を分析し、いろいろな人から意見や指摘をもらうことが一番だと思いました。また、他のグループの授業を見ることで自分にはない考え方を見つけられるので、他の人の授業を見ることも大切だと思いました。

このレポートを書くにあたって授業を見直してみると、自分ではできているつもりの方が出来ていない所がよく見えました。ビデオを見て一番に思ったのは「表情が暗い」ということです。3 回目の授業では少し柔らかくなりましたが、表情から緊張が伝わっていました。また、これは全ての授業を通してですが、笑顔が引きつっているように見えたので、全体的に表情は私の大きな課題だと思いました。2 年生の時のビデオと比べると、ことばの一言目ははっきり出るようになったと思いましたが、動揺した時にはだんだん声が小さくなり、不安な気持ちが丸見えでした。教師から不安な気持ちが丸見えだと学習者に悪い影響を与えてしまうので堂々とできるようにしたいと思いました。今回は留学生 A さんの方がよく質問をし、意見をはっきり言っていたので、毎授業、見るのが偏らないように意識していましたが、ビデオを見返すと話しているときはどうしても A さんの方を見がちだったということに気づきました。前期の実習では、授業をするのが精一杯で 2 人を気に掛けられていない所もあり、学習者である A さんと B さんの 2 人に助けられてしまっていた場面が多かった気がします。

実習が始まる前は、何も分からずただ不安な気持ちだけがあり、1 回目を終えて授業の難しさを実感し不安になり、2 回目を終えると不安が募ると同時に、自分が教えたことに対し

てなるほどと理解してくれた時の嬉しさも大きくなっていきました。全ての授業を終えてからは「本当に自分に教師ができるのか」という大きな不安も感じながら、日本語を教える楽しさを感じられるようになりました。また、「どうしたら学習者が理解しやすいか」を考えれば考えるほど、正解が分からずにもどかしい気持ちになるばかりでした。

後期の実習では、前期と人数も国も違います。私は自分の意見を主張することも人前で話すことも得意ではないので、まずははきはきと話すこと、自分の意見を怖がらずに伝えることを普段から意識しておきたいと思います。前期の実習のビデオを見て、表情は思っていたよりも学習者や授業の雰囲気大きく影響するんだなと思ったので、表情も私の大きな課題の一つです。

後期の実習に向けて今は大きな不安しかありませんが、自分が楽しまなければいい授業も楽しい授業もできないと思います。今は何もない状況に近いからこそ吸収できることがたくさんあると思うので、そういったことも含めて楽しむことを忘れないようにしたいです。また、少しでも不安な気持ちを消せるように、“もうやる事がない”くらいの準備を心掛けようと思います。日本語の授業に関してはもちろんですが、実習を通して人としてもさらにステップアップできるように頑張りたいと思います。